



執行役員

坂本 次郎

Jiro Sakamoto

技術革新の変化を得意に

山洋電気は1927年に創業し、今年で92年を迎えます。

その間の大きな景気変動をいくつも乗り越え、その時代の変化をとらえながら、独自の技術力と堅実な経営を柱に、着実な成長を続けてまいりました。

1927年（昭和2年）当時の日本は、元号が大正から昭和に変わったばかりで、電話や家電製品もありませんでした。

その後の日本は、敗戦を経て高度成長の波に乗り、エレクトロニクス技術の発展と共に、わたしたちの生活スタイルやビジネスのあり方で、大きく変化することになりました。

このような生活の変化の背景には、必ず新しい技術革新が存在しています。

近年で最も大きな変化は、インターネットを起点とした情報革新でしょう。

コンピュータ同士の結合は、世界中の人たちの知識と感情をつなぎました。この情報革新の流れは、IoT、AI、自動運転などの技術に展開され、今までの世の中の仕組みまでも変えようとしています。ロボットはIoT、AIと融合し、自らの判断で動ける領域を広げています。わたしたちはいま、次のパラダイムシフトの入口に立っているのです。

山洋電気は「ものづくり」の視点から、これらの変化を支えています。

たとえば、大量のデータ処理を可能にしたクラウドサーバには、多くの「クーリングシステム製品」が冷却用途で使用され、その安定稼働を支えています。高度に管理された植物工場や住宅換気など冷却以外の用途にも広がっています。

「パワーシステム製品」は、絶対にとまることが許されない情報社会の

前提となる電力供給を支えており、災害発生時には、ライフラインを支える重要な役割も担っています。

「サーボシステム製品」は、ロボットや工作機械などの高速で正確な駆動が求められる動作を支えています。

少子化・人材不足を背景に今後のロボットは、医療や食品の市場にも拡大し、人間と協働できる分野を広げています。

技術革新の波は次々と連鎖し、新しい技術革新を生み続けます。人間が想像していた「可能性」が、次々に「現実」になりました。今後はAIが、人間の固定概念を超えた解を加速度的に導き出すでしょう。

人間の本質は変わらなくても、技術は人間の可能性を拡張します。世界中の物や人が簡単につながる現代の生活を誰が予想できたでしょう？創業当時の92年前の人々が、現在の世界を想像できなかったように、これからの92年後の世界は、今の我々の想像を超えるでしょう。

今年、平成から次の元号に変わる「変化の年」です。これまで山洋電気は、時代の変化を先取りしながら、人々の幸せに役立つ業界トップの新製品開発を続けてまいりました。

本号でも「2018年の技術成果」として、耐環境性や人の安全に配慮した技術、IoT製品など、当社の絶え間ない技術開発の一端を垣間見ることができます。

山洋電気は、このような技術革新による時代の変化をチャンスととらえ、「変化を得意に」していきます。そして、お客さまにとって価値のある製品とサービスを世界中のお客さまにリアルタイムに提供することで、「世界のトップブランドの構築」をめざします。